

"try"angleに「挑戦する視点」の意味を含め、3つの頂点に「当事者・家族・支援員」「施設・行政・地域」「過去・今・未来」などの多様な視点を重ねて、点から線、線から面に広げる支援への思いを込めています。

トライアングル

2022
夏・秋号

発行日/令和4(2022)年10月 発行/一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者/松上利男 編集/松嶋桂子
〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

スタッフの方の 声



仕事は疲れますが、毎日やり遂げることができます。お客さまや同僚から多くのことを学ぶことができます。彼ら・彼女たちはとてもフレンドリーで親切なので一緒に仕事をするのが楽しいです。
永寿の里彩羽 ネリー生活支援員

働く時、私の気持ちに浮き沈みがあります。物を用意したり、お客さまの色々な介助をしたりと、やらなければならないことはたくさんありますが、やりがいはあります。さらに、お客さまとの絆も楽しいです。
永寿の里彩羽 ルース生活支援員



外国人雇用に取り組んだ事業所に聞く！

外国人雇用のポイント

現在の日本は、少子高齢化に伴い労働人口が減少しており、将来の労働人口を見据えた対策を講じる必要性を感じています。介護の現場では、日本人の介護スタッフ不足という事態に備え、外国人スタッフを受け入れることで、人員不足を解消しようとする事例が取り上げられています。しかし、障がい福祉分野では、介護現場のような外国人スタッフが活躍される事例を耳にすることが少ない現状です。

そこで今回の特集は、「障がい福祉施設での外国人スタッフの受け入れ」をテーマに、社会福祉法人永寿福祉会永寿の里^{いろは}彩羽施設長の松浦聡氏と管理栄養士の阪井友香氏、社会福祉法人光生会岸和田採光学園施設長の坂浦満雄氏からお話を伺いました。



岸和田採光学園(左)、永寿の里彩羽(右)の現場の様子

外国人雇用に取り組んだ事業所に聞く！
外国人雇用のポイント……………1

●ちよつとつばきリレー●
隆光学園 生活支援員 ファム・ティ・フォン・リン
隆光学園 生活支援員 ノン・ティ・ティエブ ……………3

第56回大阪フレンドシップソフトボール大会開催 ……………4

●REPORT●
令和4年度一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会を開催いたしました……………4
広報委員会のメンバーが変わりました！……………4

EPAを活用した外国人雇用！ 永寿の里彩羽

現在2名のEPA外国人介護福祉士候補生（以下「候補生」）を雇用されている、永寿の里彩羽の施設長 松浦氏・管理栄養士 阪井氏からお話を伺いました。

実は、2019年冬号で、魅力ある職場づくりの取材にもご協力いただいた事業所です。

今回は「ワーキングチーム」の皆さんが中心となって、受け入れまでの準備やその後のフォローアップをされている取り組みについて取材しました。大学の講師もされている松浦氏が講義依頼を受け、外国人のみなさんの人柄の良さに触れるなかで、是非彩羽にきてほしいという思いが芽生え、2021年9月に初めて候補生の受け入れをされました。

採用ルートについて

外国人労働者の雇入れを行うには、それぞれ目的が異なる4つの制度の中から選ぶ必要があります。彩羽では、国際貢献になるEPA（経済連携協定）を選ばれました。EPAはさまざまな規約があり、給与は日本人と同等額にすることや、勤務時間内に日本語などの勉強をする時間や体制を確保することが必須となっています。

受け入れ体制について

ワーキングチームの4名（管理栄養士・事務職員・生活支援員などで構成）が定期的に打合せを行い、どのように全職員に発信するか、どのようにすれば現場と一緒に取り組んでいける

永寿の里彩羽

か検討を重ねた結果、受け入れ前研修を実施されました。具体的には、なぜ「いま」候補生を受け入れるのか、また候補生の母国の文化や日本とは異なる価値観などについて考えてもらう機会になりました。その中で言葉の壁や文化の違いについては、戸惑う声がたくさんあったようです。実際受け入れ当初は、翻訳機を使いながらコミュニケーションをとることもありましたが、しかし、関わる時間が多くなるにつれ、日本語でもコミュニケーションをとることが増え、今では自然と相手が何を伝えたいかわかるようになってきたとも仰っていました。全職員には、わかりやすい日本語（和語・学習する↓学ぶ）を使うようにということも周知されました。

残る課題

同じ環境で働いている方々との繋がりや関わる機会が少ないため、施設単独でフォローアップの仕組み創りを行う必要があるのが現状です。

外国人技能実習生の受け入れについて 岸和田採光学園

障害者施設での外国人雇用について、外国人技能実習生を受け入れておられる（社会福祉法人光生会）障害者支援施設「岸和田採光学園」を訪ね、施設長の坂浦氏からお話を伺いました。

受け入れることになった経緯について

社会的背景（介護人材不足）や新卒者採用の

す。彩羽では独自のネットワークで、他施設に就労されている候補生のみなさんと交流できる機会を、月1回程度で企画されています。

悩んでいる法人へアドバイス

「障がい者施設での雇入れは、まだまだ可能性があります。即戦力を期待するのではなく、焦らずにわかりやすく伝えることが大切です。障がい者施設は、マイノリティの声を拾い続けてきた側なので、共通するところがあるので」と松浦氏は語っておられました。また最後に、阪井氏は「大変なこともあります。一緒にいろいろなこと挑戦できたり、新しいことをするのは楽しいです」と仰っていました。

冒頭にもありましたが、障がい者施設での候補生の雇用事例は少なく、前例がないことにチャレンジすることはとてもエネルギーが必要で、新しいことにチャレンジをする施設長の考えやワーキングチームのみなさんの自由な発想や責任感、またそれらを発揮できる場を設けている仕組みがとても素晴らしいと感じた取材でした。（広報委員 水津 由依）

岸和田採光学園

減少から法人が大切にしている「対人援助Ⅱ人の力／人のぬくもり」の確保が重要だと結論付け「外国人の受け入れを視野」に「技能実習生の受け入れ」を行う方向を考えました。

現在、法人全体では障がい者施設5事業所に17名、高齢者4事業所には、11名の技能実習生が活躍しています。

■ 受け入れるための基本的な考え方

「日本人ありきの介護業界」ではなく、「人が人の世話をする』『困っている人がいれば手を差し伸べる』という事に人種等を問う必要がない」という考え方を基本とし法人内にその考え方を浸透させることに力を注ぎました。

そしてその中から「制度3年+5年の経験」を想定し、「職員として働いてくれる人が生まれてくれること」や「法人の幹部として活躍する人材へと成長してくれること」を期待しています。

■ 伝え方について

業務上必要となる書類関係については、漢字表記、またカタカナ表記、イラストを用いたり工夫しています。

また、言葉での説明は「関西弁」ではなく「標準語（実習生は標準語で日本語を学んでいる）」での説明を心掛けています。

その他、実演、ジェスチャー等の非言語で伝えることにも力を入れています。

■ 専門的な内容を伝えることについて

障がい特性についても「ありのまま受け止めてもらいたい」ということを基本とし、「説明する」よりも「感じてもらう」という機会や体験を重要視しています。

なお、介護の基本的な教育は採用前に管理団体が事前に行っていることもありイメージを伝えることで問題なく支援を行えていると思います。

■ 受け入れ後の成果について

実習生が職場に入ることによってコミュニケーション

ンが具体化し活性化（以前よりわかりやすくなる）意識が広がっている）しました。

また利用者やご家族に関しても特に問題はなく「人としてのやさしさやぬくもり」があれば大丈夫だということも確認できました。

何よりも、職場がコミュニケーションの質の変化（具体化）で活性化したことが大きな成果だったと思っています。

■ 今後について

今後のチャレンジとしては言葉の壁もありますが、他の国からの実習生を受け入れていくことを考えています。

今までお話ししてきたように「外国人」という考え方はなく、「仲間を増やす」という考え方はです。それ以外にはないと思います。

* * *

私自身の印象として坂浦施設長が話されたことですが「外国人」という形で少しのバリアを設けてしまうことが対人援助としての考え方を否定してしまうことになると感じました。実習生にお話を聞かせて頂き、丁寧であったかいはもちろんのこと、笑顔が素敵で「人が人とそれぞれオリジナルの目標を持って共に自分らしく生きる」「支えあう」という空気が感じられました。

この感覚、環境が施設全体に広がっているんだなと想うと、本当に「外国人」というバリアをなくし受け入れていくことの重要性を知りました。

（広報委員 柴崎宏之）

ちよっと

つぶやき...

リレー

隆光学園 生活支援員 ファム・ティ・フォン・リン
隆光学園での仕事は、利用者さんの衣類の洗濯、食事の運搬、食事の介助をしています。隆光学園で働くことが決まってから、初めて出勤するまではとても緊張しましたが、今は隆光学園での仕事が大好きです。隆光学園で働いて、課題になっていることは日本語です。良い仕事ができるように、日本語を覚えられるように努力しています。

隆光学園で働いて嬉しかったことは、クリスマス会や秋祭りなどの行事で利用者さんと一緒に歌を唄ったりして、一緒に楽しんだことです。

これからの目標は、より良い仕事ができるように、もっと日本語を勉強していきたいです。



隆光学園 生活支援員 ノン・ティ・ティエプ
隆光学園では、利用者さんの衣類の洗濯、館内の掃除、食事の介助をしています。隆光学園で働く前は、少し緊張しましたが、実際に働いてみると、職員同士が助け合って仕事をしており、思っていたイメージと違いました。また、利用者さんとのふれあいが楽しいです。

今の私にとって、日本語でのコミュニケーションが難しいです。利用者みなさん、職員みなさんとコミュニケーションをとるために、日本語の勉強を頑張っています。これからも隆光学園で長く働きたいので頑張りたいです。



次回は
いちょうの森の
前岡 麻友さん
にお願い
します

大阪フレンドシップ ソフトボール大会開催

令和4年6月2日(木)に「第56回大阪フレンドシップソフトボール大会」を久宝寺緑地公園内陸上競技場で開催いたしました。コロナ禍により、2020・21年と大会の中止を余儀なくされていたのですが、今年度は感染者数が少し落ち着いていたのと屋外で開催する大会であるため、感染症対策を取りながら、1試合の交流戦のみの制限付きで開催をいたしました。

参加チームは12チーム(成人施設9チーム、児童施設3チーム)で130名の選手が参加してくれました。

当日は、午前・午後の部に分かれ、選手同士の接触を避けるため、時間をずらしながら試合を進めました。



感染を避けるため、開会式・閉会式も行うことができずでしたが、選手の方々は久しぶりのソフトボールの試合に笑顔がはじけており、スポーツの大切さを感じました。

REPORT

令和4年度一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会を開催いたしました

令和4年5月26日(木)午後1時より、「令和4年度一般社団法人大阪知的障害者福祉協会総会」を感染症対策実施の上、対面形式で大阪府社会福祉会館501号室にて開催いたしました。

当日の出席者は66名で、書面による議決権行使97名、計163会員事業所の承認を得て、全ての議案が承認されました。

総会終了後、引き続き行われた研修会では、79名の方に参加をしていただきました。

研修会は「虐待防止体制の整備〜虐待防止委員会の設置等について〜」というテーマで社会福祉法人北摂杉の子会の平野貴久氏にご講演をしていただき、支援現場で直面している課題等をご説明いただきました。

INFORMATION

令和4年度第10回障害者支援施設部会全国大会のお知らせ

令和5年1月26日(木)～27日(金)に「令和4年度第10回障害者支援施設部会全国大会」が大阪で開催されます。大会テーマは『新しい生活様式で変わる、障がい者支援施設の暮らし』～アフターコロナでの住まいや環境の充実・QOL向上のため担う役割～です。会場は1日目を大阪国際交流センター(大ホール)、2日目をホテルアウィーナ大阪で予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

広報委員会のメンバーが変わりました！

広報委員には、吉村周一さん、上月直樹さん(以上、隆光学園)、水津由依さん(かしま障害者センターLink)、溝口遥さん(東大阪市立第一はばたき園)、松嶋桂子(摂津和会)に加えて、新しく、柴崎宏之さん(いちょうの森)、櫻井由香子さん(茨木学園)に参加していただけることになりました。みんなでいろんなアイデアを出し合い、皆さんにホットな情報と明日に向かって元気の出る記事をお届けするため「トライアングル」を発行します。また「福祉協会ホームページ」を一層充実させていきたいと考えております。どうかこれからも広報委員会への温かい「応援」をよろしく願いいたします。

また、茨木学園の高原良太さん、さつき園の吉岡裕幸さんには熱心な広報活動をしていただきありがとうございました。これからも私たちを見守ってくださいね！

(広報委員長 松嶋 桂子)



柴崎宏之さん



櫻井由香子さん